

阿蘇くじゅう国立公園

砂千里の特徴

砂千里ヶ浜は火山灰で覆われた火口原です。一帯は堆積した火山灰と「火山弾」と呼ばれる冷えた溶岩の塊が点々と散らばっています。これら火山弾の大きさは数センチから数十センチ、時には直径1mを超えるものまで多岐にわたり、砂千里ヶ浜の荒涼とした一帯に散乱した様子を見ることができます。

砂千里ヶ浜一帯は火山岩（軽石、スコリア（ガス性の玄武岩のマグマが凝結してできた軽石のような岩）と溶けて固まった凝灰岩（火砕流の熱と圧力によって出来た岩））とで出来ています。近傍の活火山火口から放出された火山灰と軽石の破片が砂千里ヶ浜全体に広がり、刻々と変化する景観を作り出しています。噴火が始まると降り注ぐ火山灰で視界が極端に悪くなり辺りがぼんやりと霞ます。

砂千里ヶ浜は不毛地帯です。この一帯は、中岳火口、噴気孔や通気口、さらには源泉から絶え間なく噴き出す硫化水素や二酸化炭素を含む多量の蒸気と火山性ガスにさらされます。この有毒ガスにより植物がほとんど生育しない環境が生まれました。観光客は木製の遊歩道から出ないように注意されます。